

2018年度 第2回運用容量検討会 議事録

日 時：2018年 9月21日（金） 13：30～15：30

場 所：電力広域的運営推進機関（豊洲ビル）会議室A及び広域本番会議室A（TV会議）

出席者：

- 矢口 智（東北電力株式会社電力 ネットワーク本部電力システム部給電グループ 課長）
- 福元 直行（東京電力パワーグリッド株式会社 系統運用部 系統運用計画グループ・グループマネージャー）
- 甲斐 静治（中部電力株式会社 電力ネットワークカンパニー系統運用部系統技術グループ課長）
- 山下 益功（北陸電力株式会社 送配電事業本部電力流通部系統運用チーム統括課長）
- 川上 智徳（関西電力株式会社 送配電カンパニー系統運用部系統技術グループチーフマネージャー）
- 芳野 祐樹（関西電力株式会社 送配電カンパニー系統運用部系統技術グループ）
- 角井 弘典（中国電力株式会社 送配電カンパニー系統技術グループ副長）
- 正岡 寿夫（四国電力株式会社 送配電カンパニー系統運用部給電グループリーダー）
- 江口 貴之（九州電力株式会社 送配電カンパニー電力輸送本部電力品質グループ副長）
- 飯塚 俊夫（電源開発株式会社 流通システム部変電・系統技術室総括マネージャー）

事務局

- 竹内 浩（電力広域的運営推進機関 運用部長）
- 大川 修司（電力広域的運営推進機関 運用部広域調整グループマネージャー）
- 岡部 泰一郎（電力広域的運営推進機関 運用部広域調整グループ）
- 中嶋 駿介（電力広域的運営推進機関 運用部運用技術グループ）

配布資料

- 1-1 周波数低下維持限度値算出における整理事項
～需要補正の適用とEPPS織込み方法～
- 1-2 「周波数上昇限度の考え方整理」について
- 1-3 間接オークション導入後における運用容量の算出方法及び公表断面について
- 1-4 フリンジの算出方法の見直しについて
- 2-1 間接オークション導入後の関西中国間連系線の管理について

議題 1：運用容量算出における課題の検討について

〔主な議論〕 ○検討会 ●事務局

・周波数低下維持限度値算出における整理事項について

関西電力から資料 1－1 の説明後、議論を行った。

●：需要想定方法の整理について、30分細分化していない連系線についての、需要の下振れリスク考慮の整理等も含め12月まで検討を行うという意味か？

○：その通りである。何コマ程度までの下振れを許容するかも含め検討を行いたい。

○：EPPSの時間遅れを考慮した織り込み量の考え方は、50Hz系統においても同様の考え方に整理されるのか。

○：50Hz系統では元々EPPSの時間遅れを運用容量算出に織り込み済みであるため、時間遅れ係数を考慮しても、運用容量に影響は無い。

○：最終的には共通の考え方として整理する。

○：上期において検討が未完了の課題は、下期も引き続き検討する。基本的な考え方は今回の資料にて整理されたこととしたい。

●：引き続き検討となった事項は、次回の運用容量算定に反映させたいため、12月を目標に検討を進めていただきたい。

・周波数上昇限度の考え方整理について

九州電力から資料 1－2 の説明後、議論を行った。

●：簡易的な試算結果や不確実要素によるリスクの存在は理解するが、そうした理由だけで上昇限度の緩和ができないと判断することは出来ない。より詳細なシミュレーションを行うことや、不確実要素の評価方法などについて検討の余地があると考えている。また、スピードアップして検討する必要があるため、スケジュールを相談させていただきたい。

○：現状は詳細に検討するツールが無いことから、確認の仕方などを引き続き相談させていただきたい。

・間接オークション導入後における運用容量の算出方法及び公表断面について

事務局から資料 1－3 の説明後、議論を行った。

○：今後、業務規程の見直しは考えているか？

●：見直す方向で考えている。

- ：間接オークション導入後の業務規程においても、現行の運用容量の公表断面とする事がルール上問題ないのに、業務規程を見直すのは何故か？
- ：今後、実務とあっていないと誤解されるのを避けたいためである。このため、広域機関内で調整した結果、見直ししないという結論もあり得る。

・フリンジの算出方法の見直しについて

事務局から資料1-4の説明後、議論を行った。

- ：東北東京間連系線の3 σ 値がH29年度実績でH28年度より3万KW増えているが、何か原因を把握しているか？
- ：原因は把握していない。様々な要因によると想定されるため特定は難しいと思われるが、来年に向けては注視する。

議題2：その他

〔主な議論〕 ○検討会 ●事務局

・間接オークション導入後の関西中国間連系線の管理について

中国電力から資料2-1の説明後、議論を行った。

- ：資料で運用容量を示した図においてはマージンの記載がないが、これまでの運用断面ではほとんどマージンを「0」としているため省略したという理解でよいか。
- ：そのとおりである。
- ：本議題の目的である関西中国間連系線のフェンス差分の設定値の31万kWと西播東岡山線作業時の18万kWの妥当性の確認については、特に異論はない。
- ：実際は空容量が十分であることからフェンス差分の設定によるスポット市場への影響は限定的であるが、今後とも運用容量検討会にて定期的に検証していきたい。

以上